

# 緑深い奥秩父の悠久の名溪

## 奥秩父 笛吹川東沢 鶏冠谷右俣

日 程 2016年6月18日(日) 前夜発日帰り

メンバー 齋藤(C.L・記録)、松村(S.L)、谷内、小嶋、荒井、飯野

行動時間 西沢溪谷駐車場6:05→鶏冠谷出合6:45→40m大滝14:20→登山道15:20  
→駐車場17:05

天 気 晴れ

### 行動記録

今回も沢の経験の少ないメンバーのトレーニングと、経験者の課題を持ったレベルアップをそれぞれ楽しみながら実践する沢として奥秩父の鶏冠谷右俣をメンバー6人と遡行した。

「溪は酒」と往年の沢屋が言ったか言わぬか、前夜泊なので西沢溪谷の駐車場で入山祝いの乾杯を行う。ここでいかにいい飲み会ができるかが翌日の遡行の成功の鍵を握っていると言える。これこそ沢のルーティーンである。楽しい会話に翌日の遡行の期待とメンバーの結束も深まる。

翌日、梅雨時期にも関わらず初夏を思わせる快晴だ。私が東沢流域を初めて訪れたのは19歳の大学1年生の秋、日帰り東沢釜ノ沢を遡行し甲武信ヶ岳まで登ったときだった。何度も通った場所だが今も変わらない奥秩父の溪の姿に懐かしさを感じる。

お互い何気ない会話をしていると程なくして鶏冠谷出合に到着。私以外は皆初めての鶏冠谷の遡行なのでラストからそっとついて行く。最初は小滝とゴーロ歩きだが奥飯盛沢出合に差し掛かると連続したナメ滝とさらにその上にある名物「逆くの字の滝」が出てくる。前半のハイライトだ。

逆くの字の滝は松村さんリード。どうやら久しぶりの沢でうずうずしていたようだ。ここは水流際をフリクションを交えながら登るのがなかなか面白い。他のメンバーも問題なく登れて楽しめたようだ。

二俣までは適度な滝とちょっとした釜もあり、時折水面に差し込む空の光がキレイで癒されながら登っていく。右俣の出合の奥の滝は登れないので一旦左俣から回り込み、小尾根にのって右俣への踏み跡を拾って高巻く。この高巻きは難しいわけではないがそれなりに高いところを巻くので慣れないメンバーがいる時は慎重に行動するところだ。

高巻きを終えいくつか小滝を越えていくと中間の核心30m大滝がでてくる。ここも松村さんがリードで水流左側の垂壁をトライするがうまく取り付けず一旦仕切りなおす。リードを私が交代し滝の右側のルンゼから上部の草付きをトラバース気味に抜ける。途中上部で振られた時のことを考えハーケンを1本打ち足す。ここが右俣の核心だろう。

大滝を抜けるとナメ滝とナメが交互に現れいよいよデート沢の様相になる。所々ヌメるのでここで転ばなければデートは成功だろう。そんなナメにうつつを抜かしていると本日のハイライト40m大滝が現れる。ここからは登山道へヤブこぎで詰め上げるだけである。最後の滝業で飯野さん、荒井さん、小嶋さんは自ら滝に打たれる。谷内さんはそれを横目に大人な反応。松村さんはデートで来るかどうか思案中(だったかもしれない)。

ここで鶏冠谷とはお別れ、あとは大滝手前の支流から適当な尾根に取付きヤブこぎで登山道を目指す。昔は嫁とシャクナゲのヤブこぎに苦労した記憶があったが、今回は女性に優しい飯野さんがヤブの薄～いところをセレクトしてくれたおかげでそれほどヤブこぎせず登山道に出る。あとは徳ちゃん新道経由で下山し今回の沢トレは無事終了した。

帰路は秩父の道の駅大滝温泉に立ち寄る。700円はちと高いがツルツルになる美肌効果のありそうなお湯だ。皆腹が減ったとのことで秩父名部はないかと探してみたら「味噌ぶた丼」なるものが存在するらしい。真相を確かめるべく我々の検索にヒットしたのが秩父の高台にある「ちんばた」だった。オンサイトであったが炭火焼の香ばしさと味噌と豚肉の脂がマッチしてほんとに美味かった。どうやらイチローズモルトもあるらしいので次回は秩父ビバークで「ちんばた」打ち上げ山行を企画したい。

(記録・文：齋藤)





